

明けましておめでとうございます。

在カナダ大使としてオタワに着任してから、9ヶ月が経ちました。昨年は、富士山と日本食が世界遺産に登録され、東京が2020年夏季オリンピック開催都市に決定する等、東日本大震災からの復興を勢いづける明るい兆しの多い1年となりました。

日加関係においては、9月に安倍総理がオタワを訪問し、ハーパー首相と首脳会談を行いました。安全保障分野では、物品役務相互提供協定（ACSA）の実質合意が確認され、第二回次官級「2+2」対話を出来るだけ早期に開催することに合意しました。経済面では、10月に茂木経済産業大臣がカナダ（バンクーバー）を訪問してオリバー天然資源大臣との間で「石油・天然ガスに関する協力声明」に署名し、同月には羽田空港の昼間の発着枠を日本とカナダに各1便割り当てることが合意される等、首脳間の合意が素早く具体化されました。

文化面では、在日カナダ商工会議所から文化大使に任命されたカナダ人落語家の桂三輝（かつらサンシャイン）氏が北米5都市にて英語落語を披露し、各地で高評を得る等、様々な文化行事が行われました。

私自身は6月にオンタリオ州を公式訪問し、カナダ経済の中核を担うオンタリオ州との経済関係強化の重要性を再確認するとともに、日加間の研究協力・学生交流の一層の促進が将来の日加関係に寄与することを改めて認識しました。また、安倍総理のカナダ訪問直後の10月にはブリティッシュ・コロンビア州を公式訪問し、同州首相より、日本とのエネルギー協力の強化は日加両国の更なる経済関係の強化につながるものとの期待の表明を受けました。

昨年はリドレス合意から25年の節目の年でしたが、訪問した両州を含むカナダ各地において、日系人の皆様が日本文化の継承やコミュニティの福利のために日々活発に活動し、様々な分野でカナダ社会に貢献されてきたことに感銘を受けました。

本年は、日加EPA交渉の促進に力を注いで両国間のビジネス促進に寄与し、活発な人の往来を後押しして日加の相互理解の深め、両国関係が一層緊密となるよう、皆様からのご支援を頂きながら、更に力を尽くして参る所存です。

末筆ながら、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

平成26年元旦

奥田 紀宏
在カナダ日本国大使